

分担研究課題名  
保健福祉情報の整備と活用に関する研究

分担研究者報告書

分担研究者 庄 司 順 一

〈リサーチ・クエスチョン〉

母子保健福祉情報のデータベース化はどのような資料をどのように利用できるように作成するか。（実際に利用できる形のデータベースを作成し、試用に供してほしい）

〈研究目的〉

母子保健福祉に関する情報には膨大な量があるが、必ずしも有効に活用されているとはいえない。またコンピュータの普及、発展にともない、どのような形での情報提供が望ましいか検討すべき時期にあるといえる。そこで、前述のリサーチ・クエスチョンにもとづき、母子保健福祉情報のコンピュータを介した提供のあり方、コンピュータの利用状況を検討するとともに、とくに母子保健福祉情報の集積されている「厚生省心身障害研究報告書」のデータベース化をすすめるための条件、方法について検討を行った。

〈研究方法〉

1)母子保健における情報提供のあり方に関する研究（中村 敬）  
2)保健・福祉情報の利用状況等に関する調査（恒次欽也ほか）  
3)厚生省心身障害研究報告書のデータベース化にかかわる問題点の検討（中沢明紀ほか）  
4)厚生省心身障害研究報告書のデータベース化に関する研究（斎藤 進ほか）の4点について検討を行った。

とくに、4)においては、平成6年度の「心身障害研究報告書」をもとに、イメージデータを利用したデータベースのサンプル版（CD-R）を作成した。

〈研究結果〉

1 母子保健における情報提供のあり方に関する研究（中村 敬）

母子保健医療福祉の分野で、コンピュータを利用して提供されている情報について分析し、これからの情報提供のあり方について検討した。そのために、現在稼働している情報

システムのうち、いくつかのモデルを選び、その現状と問題点、特徴を明らかにした。その結果、①独立した情報システムとして稼動中のもの（厚生行政総合情報システムWISH）、東京都母子保健サービスセンター周産期データベースなど）、②商用コンピュータ通信にみられる母子保健医療福祉情報（ニフティサーブ、PCVANなど）、③インターネットにみられる母子保健医療福祉情報（学術情報センターNACISIS、MEDLINEなど）、④医薬品情報（大学医学情報ネットワークなど）、⑤AIDS情報、⑥旅行者への情報提供、⑦医学教材、⑧書籍販売、などさまざまな情報が飛び交っていることが明らかになった。また、これからの情報提供の手段は、コンピュータを介した通信によるものが大きく発展することが予想されるが、普遍的情報は、画像、音声などのマルチメディア情報として提供することができるCD-ROM上に作成されたデータベースで提供されるのが望ましいと考えられた。

## 2 保健・福祉情報の利用状況等に関する調査（恒次欽也ほか）

母子保健福祉情報のデータベース化の可能性と必要性を知るために、保健・福祉情報の利用状況、コンピュータの利用状況等について、「心身障害研究」の研究班に属したことのある研究者、自治体の母子保健担当課長、保健所・保健センターの母子担当保健婦、病院の医師、看護婦等を約1,000名を対象にアンケート調査を行った。その結果、「心身障害研究報告書」は参照されていれば、有効な資料となっていること、データベース化が望まれていること、情報機器は整っているが、通信機器をはじめとする通信環境がとくに現場においては貧困であることなどが明らかになった。

## 3 厚生省心身障害研究報告書のデータベース化にかかわる問題点の検討（中沢明紀ほか）

「心身障害研究」の成果を地域の保健福祉施策に活用するためには、この報告書をデータベース化し、利用しやすくすることが求められる。そこで、そのデータベース化をはかるための問題点を整理するために、研究報告書の様式を分析した。分析の対象としたのは平成6年度の11冊の研究報告書である。その結果、報告書記載の様式の多様性が示された。報告のほとんどすべては、図表を除くと、ワープロ原稿で記載されており、フロッピーディスク等で電子情報として得ることは可能であると考えられた。しかし、報告書をデータベース化し、CD-ROMとして電子出版し、必要な文献として検索しやすくするためには、報告書の様式の規定を改善するとともに、報告者自身が検索を意識して「要約」を記載したり、「見出し語」を適切に選定することが必要といえる。また、将来的には、インターネット等を通じて世界に情報発信することを考えると、少なくとも表題と執筆者の氏名・所属には英訳を付すことが望ましいと思われた。

#### 4 厚生省心身障害研究報告書のデータベース化に関する研究（斎藤 進ほか）

「心身障害研究報告書」のデータベース化の可能性と有効性について、既存資料の検討や研究協力者による討議をもとに検討した。また、平成6年度の「報告書」1冊をもとに、イメージデータを利用したデータベースのサンプル版を作成した。

将来のデータベース化にあたっては、報告書の内容すべてが収録されていること（全文データベース）が望ましいこと、また、データベース化にあたっては、過去の報告書と、これからの報告書とでは作成方法を変えた方がよく、印刷物としてしか入手できない過去のものについてはイメージデータ（画像データ）を利用し、これからのものについては報告をフロッピーディスクで提出してもらい、電子データ（テキストデータ＝文字コード情報）を利用するのがよいこと、「報告書」のデータベースを提供するにはCD-ROMが適当であることが明らかになった。

#### 5 まとめ

以上の諸研究から、次のような結論を得た。

- ①保健福祉の領域においても、これからの情報提供の手段としては、コンピュータを介した通信によるものが大きく発展することが予想されるが、普遍的情報についてはCD-ROMで提供されるのが望ましいと考えられる。
- ②「心身障害研究報告書」をデータベース化することは可能であり、これにより心身障害研究の知見がより有効に活用される。また、そのデータベースは全文データベースが望ましい。
- ③データベース化にあたっては、過去の報告書と、これからの報告書とでは作成方法を変えた方がよく、過去のものについてはイメージデータを利用し、これからのものについては報告をフロッピーディスクで提出してもらい、電子データを利用するのがよい。
- ④「報告書」のデータベースを提供するにはCD-ROMが適当である。
- ⑤データベース化をはかるためには、英文のタイトルや研究者名をいれること、要約や見出し語の記載方法を改善することも検討される必要がある。

#### 〈今後の課題〉

- ①コンピュータ通信網にのっている大量の情報の中から、母子保健医療福祉に関連し、利用価値のある情報をピックアップし、その提供先、アクセスの方法、情報の内容等についてディレクトリを作成し、広く活用できる資料集を作成したい。
- ②母子保健医療福祉領域におけるコンピュータ利用状況をさらに検討する。

- ③「心身障害研究報告書」のデータベース化をすすめるために、データベース作成にふさわしい報告書記載様式について検討する。
- ④作成したデータベースのサンプル版をつかってみて、その評価を行う。
- ⑤平成7年度報告書の電子データ（フロッピーディスク）をつかって、全文テキスト入力データベースの作成を試みる。



**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



<研究目的>

母子保健福祉に関する情報には膨大な量があるが、必ずしも有効に活用されているとはいえない。またコンピュータの普及、発展にともない、どのような形での情報提供が望ましいか検討すべき時期にあるといえる。そこで、前述の研究・クエスチョンにもとづき、母子保健福祉情報のコンピュータを介した提供のあり方、コンピュータの利用状況を検討するとともに、とくに母子保健福祉情報の集積されている「厚生省心身障害研究報告書」のデータベース化をすすめるための条件、方法について検討を行った。